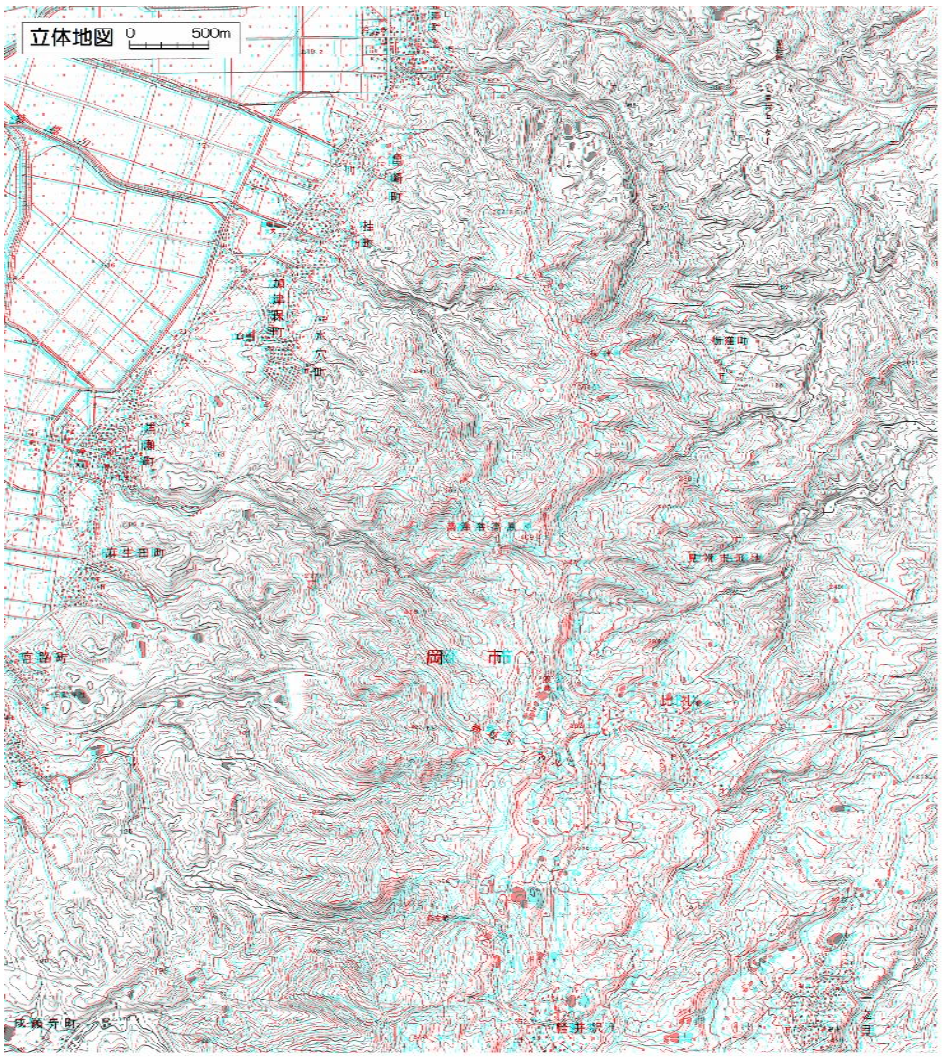
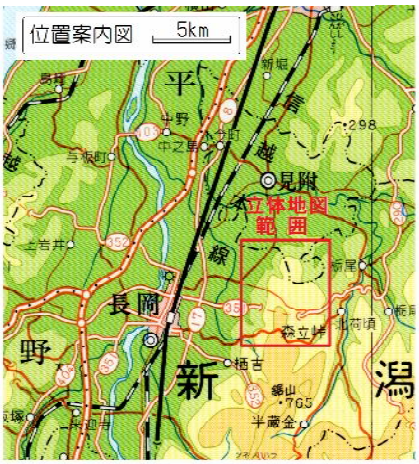
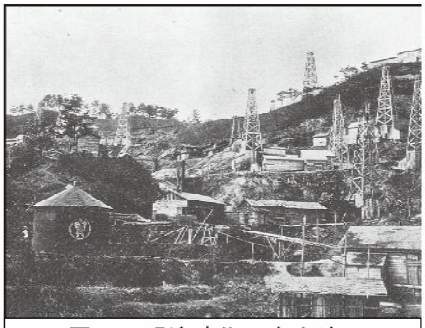
１７．東山油田をはぐくんだ丘陵（長岡市浦瀬町～比礼周辺）





図Ａ　東山油田の跡を示す看板



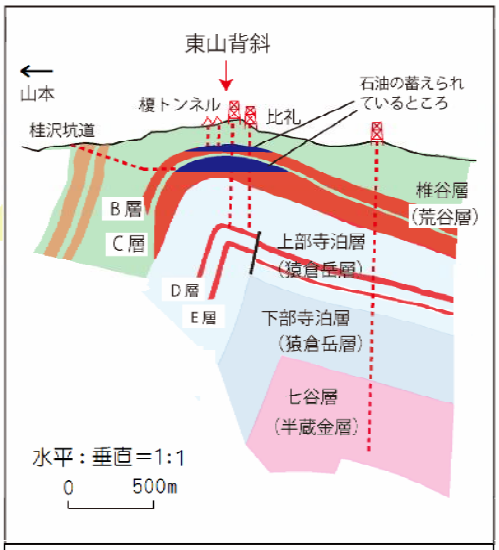
図Ｂ　明治時代の東山油田

（「目で見る100年の歩み 激動の長岡」(1970年) より）

浦瀬から比礼（ひれい）にぬける榎（えのき）峠手前に，「火気厳禁」，「立入禁止」の看板が，ひっそりと立っていました（図Ａ）。日本有数の産油を誇った東山油田のありし日の面影です（閉山のため 2010 年には撤去されました）。採掘の最盛期は明治時代の後期（図Ｂ）ですが，石油の出荷は平成初期まで続きました。

石油は地下深く有機物に富んだ泥岩（でいがん）層で生まれ，水より軽いため上方へ移動し，すき間の多い砂岩層などにたくわえられます。新潟県の産油層はおもに椎谷（しいや）層，寺泊層，七谷（ななたに）層です。東山油田では，特に椎谷層中のＢ，Ｃ層から多く産油されます（図Ｃ）。ここでは椎谷層が地下の浅いところにあるため，明治期には手掘り井戸が多く用いられました。

石油は馬の背状に変形している地層の頂部にたくわえられます。この変形した形を背斜（はいしゃ）構造といいます。背斜構造は地層が褶曲（しゅうきょく）によって隆起しているところです。東山背斜の頂部は，ほぼ南北にのびる東山連峰と並行しています。このことから，東山は地層の褶曲と地盤の上昇運動でできたことがわかります。東山での石油の生成は東山連峰の形成と密接な関係があります。



図Ｃ　東山油田の地質断面